

Ⅲ. 保護者対象個別相談・情報提供

(1) 実施結果

11月2日～12月22日の期間

毎週水、木、土曜日（15：00～18：00）

相談1回につき45分程度実施 1日あたり3回分の枠を用意した

時間	内容
14:30～15:00	開始前ミーティング 会場などの準備
15:00～16:00	相談内容に基づく情報提供①
16:00～17:00	相談内容に基づく情報提供②
17:00～18:00	相談内容に基づく情報提供③
18:00～18:30	記録 及び 後片付け

※ 11月2,5,9,10,12,16,17,19,24,26,30日（用意した枠33）

※ 12月1,3,7,8,10,14,15,17,21,22（用意した枠30）

※ 情報提供実施回数 合計31回実施（用意した枠63回）

●相談を受けた保護者が抱える子（若者）の状況

【年齢層】

年齢	20歳未満	20-25歳	26-30歳	30歳以上	不明	合計
人数	1名	11名	6名	12名	1名	31名

【男女比率】

性別	男性	女性	合計
人数	28名	3名	31名

【最終学歴比率】

最終学歴	大学/短大/専門学校 卒業・中退	高等学校 卒業・中退	不明	合計
人数	18名	6名	7名	31名

【就職経験の有無】

就職経験の有無	有り	無し	不明	合計
人数	17名	11名	3名	31名

【状況】

- 昼夜逆転
- 家事手伝いはする
- 買い物以外の外出なし
- 交友関係なし・少ない
- 就職活動が行えない

- ▶ 部屋に引きこもりがちである
- ▶ 就職の話になると何も答えてくれない
- ▶ 一度ハローワークに行ったが、それ以降動いていない。
- ▶ 親子の会話もなくなってきている
- ▶ 就職活動を始めようとしない

●保護者と我が子（若者）の意識の差異

保護者⇒すぐに正規職員として就職を
 ⇒ホワイトカラーで働いて
 ⇒どんどん面接を受けるべき
 ⇒仕事は安定したものを
 ⇒支援機関の活用も

我が子（若者）⇒まずは、アルバイトから
 ⇒手先を使う仕事（物作り）がしたい
 ⇒書類選考で落ちてしまう（面接までいかない）
 ⇒何に向いているのかがわからない
 ⇒支援機関をうまく活用できない

●保護者対象個別相談・情報提供の成果

2月27日現在、個別相談を受けた保護者31名のうち、10名の家族の若者（当事者）が支援機関を利用し始め、ニート・引きこもり状態から一歩足を踏み出すことができた。

情報提供を受けて、あだちヤングジョブセンターを訪れ、自発的に「親からすすめられて来所した」と申し出た若者の人数 5名

その他の支援機関の支援を受けることが確認できた若者の人数 5名

(2) 参加者の声

- ▶ 親としてまず何をしたらよいかを、わかりやすく話していただき良かったです。言われたことを早速実行してみようと思います。
- ▶ 良くこちらの話を聞き、方向性を示してくれました。
- ▶ 初めて相談に伺って、他と比較することが出来ないので何とも言えませんが、親身になって話を聞いていただいたことを実感出来ました。又、色々とアドバイスも受けましたので、内容を検討して、息子にも話してみたいと考えています。
- ▶ 具体的に今何をしたら良いのかが少し分かったような気がしました。「子供本人はこのままの状態ではいいと思っていない」という先生の確信に満ちた言葉を信じたいと思います。頑張ってみようかなという気持ちになりました。話しやすかったです。
- ▶ 具体的に助言して下さって、迷っていた気持ちが整理できて良かったです。いざという時に相談できるカウンセラーがいるというのは何と心強い事だろうと思

いました。

- 説明対し的確に分析し、私が理解できるように解説して下さいました。今後の対応についても十分な説明があった。今日又は明日に子供と話をするつもりである。
- 信頼を持って相談することができました。
- 今までの苦しい思いの原因が分かり、先に進める方法が少しでも分かったような気がします。親ゼミから親相談に来て本当に良かったと思います。ありがとうございます。
- 良く話を聞いてくださりありがとうございました。教えていただいたことを私実践してみたいと思います。ここに來られて良かったと思います。ありがとうございます。
- 相談が出来て、アドバイスいただき、少しホッとしました。帰りましたら指導いただいたように話してみようと思います。ありがとうございます。スタッフの方々も感じが良く、子供もここに來れるようになったらいいなあと思います。
- 私の話を切実に聞いて下さり、私のほうが年上なのに何か包まれている感じがして、相談に来て良かったと思いました。センターはいつもきちんと整理されており若い人が元気に働いているのを見られて感じが良いです。我が息子がここへ訪問してくれればと願うばかり。
- 子供の状況に合わせて具体的にアドバイスして下さったので、とても参考になりました。今日のアドバイスをもとに子供と向き合いたいと思います。ありがとうございます。
- 息子の社会的引きこもりと職業について、とても信頼してお話することができました。有難うございました。
- とてもよく話しを聞いていただき、又、自分の気持ちをよく汲み取っていただき良きアドバイスを頂きました。今後、又、行き詰った時には話を聞いていただきたいと思いました。有難うございました。
- 大変良く話を聞いていただき不安に思っていたこともある程度わかりました。また、解決に向けてのアドバイスをして頂きありがたく思いました。
- すごく参考になりました。さっそく3人で話し合ってみたいと思います。ありがとうございます。
- とても親切に相談に乗っていただきまして良かったです。1つ1つの質問に対して、丁寧に答えていただけて、話しやすかったです。
- とても良く話を聞いて頂き、安心して話しました。コミュニケーションの取り方や、次に進む話の持って行き方等、参考になりました。
- 過去何回か他で相談に乗っていただいた事がありますが、本日は相談に伺って非常に良かったと思いました。ありがとうございます。
- 親切な話の内容に感謝しております。光が見えてきた様です。
- 色々な面でプラスになることが多かったです。話しやすく、方向性を示してくれることも大きな成果だったと思います。
- お話がとてもソフトで話しやすかったです。
- お話して本当によかったです。良いアドバイスを頂いたように思えます。好感、

信頼感を得ました。感謝です。

- とても良く話を聞いて下さり感謝です。
- 家庭と外部の方との両方の面から、少しずつ進めていけばいいというお話は、とても良かったです。親切に相談に乗って頂いて、気持ちが楽になりました。これからも、どうぞよろしくお願い致します。
- (相談の)時間がもう少しあれば・・・
- 子供を何とか外部の相談機関に行くように持っていけたらと思いますが、そこまでは親が関わり、仕向けなくてはならないと思うと大変なことだと感じてしまいます。
- 親相談に来て本当に良かったと思います。ありがとうございました。
- ここに来られてよかったと思います。皆様ありがとうございました。
- スタッフの方々も感じが良く、子供もここに来られるようになったらいいなあと思います。胸のつかえが少し取れたように思います。
- 自宅から北千住が遠いので都のサポートネットを紹介していただきました。
- 又相談に乗っていただければと思います。
- 今後とも、センター様のご支援をお願い致します。
- まだ初めてなのでよくわかりませんがまだご相談させていただけたらと思っています。
- 長い時間話を聞いていただいてありがとうございました。
- 埼玉にここと同じような場所が是非ほしいと思います。
- 又ご相談させていただくことがあると思いますので、よろしくご支援お願い致します。
- 最終的には息子次第だと思います。まずは、子供と一緒に立川のJOBを訪ねて見たいと思います。これからもよろしくお願い致します。

5. 実施結果に対する評価

まず、今回の企画にご協力いただいた足立区役所を始め、行政関係の皆様深く感謝申し上げたい。全国に先駆け「保護者」への支援・相談事業を行ったが、参加いただいた方々から多くの感謝の言葉をいただくことができた。

ニートや引きこもりの傾向がある子を持つ保護者の多くが、一人で悩み、苦しんでいた状態を脱し、相談できる場を知り、活用することを通じて、これまで支援機関等の情報を積極的に獲得することが困難な状況にある若者に対しても、「情報」を届けることができたと自負する。

短期間の実施であったものの、就労に一步踏み出すことができずに当惑する我が子を抱える保護者が、積極的にキャリア・コンサルタントによる支援を活用することによって、5名(事業実施期間内)もの若者が、実際に自分であだちヤングジョブセンターに来所することとなった。これには、ニート・引きこもり状況にある若者の支援をしている民間支援者からも多大なる評価をいただいた。

感想(アンケート)を読んでも、孤立状況にあった保護者同士が交流し、「悩んでいたのは自分だけではない」ことに気づき、「ひとりで抱える必要はない」との安心感を

覚え、再度、我が子に対して積極的に向かい合う心構えができたことが窺える。

一方、告知に関しては、実施担当者として大きな不甲斐なさを覚えている。民間支援団体（「育て上げ」ネット）とキャリア・コンサルタントとの細部の検討に予想以上の時間がかかり、事前の告知が実施の直前にならざるを得なかった。しかし、セミナー実施日の第一回と第二回で大きく参加人数が増えているように、さらなる工夫の余地はあるものの、「ニーズ」は確実に存在すると確信した。

上記のように、なぜ、民間支援団体とキャリア・コンサルタントの間のすり合わせに時間がかかったのか。その最も大きな要因は、「アウトリーチ方法の理解」である。キャリア・コンサルタントにとって、目の前にクライアントがいない状況、つまり、最終的な目的（ターゲット）である若者が眼前にいない状況で、保護者と対峙し、その保護者を支援することによって、若者本人の気持ちを汲み取りつつ、効果的なアウトリーチ方法を見つけることは非常に困難であった。そのすり合わせ、相互理解に多大なる時間がかかった。しかしながら、この時間を削減することなく、最後まで粘り強く学び通したからこそ、相談者である保護者から大きな評価をいただけたことは、評価に値すると思う。

ニートや引きこもり状況にある若者の多くは、現状からの脱出、特に就業を強く希望している。にもかかわらず、現状からどのように社会へ、就労へ踏み出していけばいいのかかわからずにいる。彼ら/彼女らは支援機関・団体の支援を必要とする場合が多い。しかし、自分の状況、性格等に合った（相性の合う）場所や支援者を探し続けること、それが最もシンドク、困難を感じていることなのである。

そのような状況下にある若者が、かろうじて維持している社会的なつながりが保護者（家族）なのである。また、保護者も若者と同様に、時にはそれ以上に、我が子の自立を案じている。現実的に、ニートや引きこもり状況にある若者を直接支援することは難しい。彼ら/彼女らの来所を待っているだけでは、何も変わらない。であるならば、当事者である若者が自分で行動を起こし、支援機関に来所できるような安心感を与えるには、保護者を通じて情報を届けることが必要なのである。

今回の試行を通じ、キャリア・コンサルタントが、ニートや引きこもり状況にある若者を抱える保護者を通じて支援を行なうことで、アウトリーチの成功という大きな成果を挙げることができることが明らかになった。また、今回の事例を通じ、キャリア・コンサルタントの活動範囲が予想以上に幅広く、一般にも受け入れられることが明確となった。

6. 今後の地域展開に係わる意見

(1) 自治体での保護者を対象とした取り組み計画への対応

今回実施した保護者（親子）対象のセミナーと情報提供（個別相談）は、自立困難な若者を抱える保護者と、若年者のキャリア支援に積極的な自治体の両方から強いニーズがある。現在、足立区以外でも、同様の取り組みの計画が進みつつあるが、今回の企画を他の自治体の施設などでも参考にいただければ幸いである。

今回はニート状態が長い子を持つ保護者が多かったが、子どものニート状態の初期段階や、「子どもがニートになるのでは」と不安になった時等、早い段階で保護者が参加できるよう、同様の取組みが広く行われるようになれば良いと考える。

また、今回と同様の企画を実施するためには、主催者である自治体または公的機関とキャリア・コンサルタントとの緊密な連携が非常に重要である。会場の確保、広報での告知などを始め、主催者（自治体または公的機関）の理解と協力があつて初めて成立する企画であるので、その点に充分配慮する必要がある。

（２）講師・相談員の確保、養成

地域において同様の取組みを展開するためには、講師・相談員の確保が重要であるが、容易ではない。それは、このような社会的引きこもり状態にある若者への支援実績がある者は限られているからである。講師・相談員には、若者支援機関についての十分な生の情報を得ることや、若者支援機関のスタッフ等の協力を得た相談のロールプレイなどを含む実践的研修等による若者支援についての理解が必要である。

今回の取組みで相談員や講師を務めたキャリア・コンサルタントは、若者の就労体験事業に実績を持つNPO法人「育て上げ」ネットから、次の２点を始め様々なことを学ぶことができた。

1. 社会的引きこもり状態にある若者支援についてのノウハウ及び情報
2. 保護者への情報提供のための相談のノウハウ及び情報

特に引きこもり状態にある若者に対するキャリア支援は、中高年のクライアントに対するキャリア支援とは相当異なるノウハウ及び情報が必要であり、このような若者への支援実績のある団体等から、実践的な事柄について今後も学ぶ必要がある。

さらに、同様のセミナーの講師には、情報提供のための相談員としての実績の他に、アイスブレイクやグループワークなどのファシリテートの実践的スキルも求められる。

上述のとおり、自治体などで同様の取組みが広がり始めており、このような研修等を通じた講師・相談員の確保・養成について早急な対策が必要と考える。

（３）告知方法の工夫

告知の方法については手探りの状態であり、改善の余地が随分あると言える。自治体の広報などに加え効果的な告知についてさらに模索していく必要がある。

なお、保護者の世代では、情報源として新聞や自治体の広報などから情報を得て参加申し込みをするケースが多く、インターネットでホームページなどを検索するケースは少ないことが明らかになった。そのため、保護者世代を対象とする告知では、若年者対象の広報とは違ったアプローチが必要と思われる。

（４）保護者に対する予防的な取組みの早い段階での実施

今回対象となった保護者の子どもの中でも、在学中に引きこもりがちになっていた若者は少なくない。また、引きこもりの状態が長引く（例として中学中退から引きこもりの生活が続くなどのケース）ほど、自立に向けた支援も困難になるのが一般的傾向である。

社会的な引きこもり状態の若者が今後増加しないようにするためには、教育機関とも連携し、大学や中学、高校段階の子を持つ保護者に対し、予防的なセミナーなどを開催する必要があると思われる。

(参考)

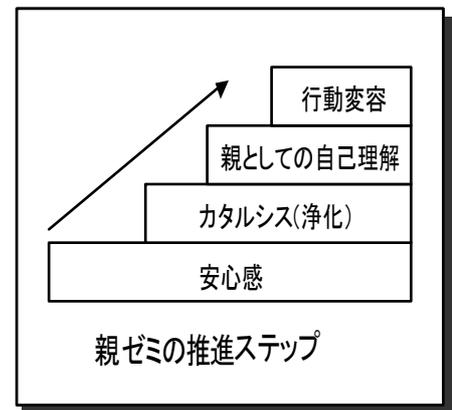
今回の試行実施の流れ

①保護者対象セミナーの実施

- ⇒ワークショップを通じて、保護者同士が安心感を得、抱えていた悩みを吐露できる環境を提供
- ⇒若者の就業環境を学ぶとともに、保護者としての自分を理解し、若者の第一支援者としてサポートできるようになる
- ⇒実際にニートやひきこもり状況にある我が子の支援者としてサポートする、または我が子への接し方を変えてみる。

②親子対象セミナーの実施

- ⇒保護者と子ども（若者）に別々のグループに入っただき、ワークショップを通じて客観的に家庭状況を把握する
- ⇒親子ともに、現状からの脱出と自立に向けた活動に取り組めるよう準備をする



③保護者対象の情報提供窓口の開設

- ⇒我が子の自立に悩みを抱える保護者を支援することにより、ニートやひきこもり状況にある若者に保護者を通じて情報を届けることができる。
- ⇒保護者の我が子への接し方を変えることで、若者の就職に向かう行動を促すことができる。

・保護者

- ⇒保護者を通じ、ニートやひきこもり状況にある若者への「支援の場」を知る
- ⇒若者の就職に必要なことを学び、保護者として我が子の第一サポーターとなる
- ⇒保護者が子どもの就労を後押しできるようになる

・ニートやひきこもり状況にある若者

- ⇒保護者を通じて、支援機関の“生”の情報を得る
- ⇒孤立状況から脱却し、支援機関を活用できるようになる
- ⇒自立に向けた就業行動に踏み出す